

地域で育てる。

求む。学校支援ボランティアの力

市教育委員会では、学校と家庭、地域が協働で子どもを育てていくこと、「学校・地域教育力向上対策事業」に取り組んでいます。この事業は、学校の教育現場に地域の力を取り入れようというものです。今、なぜ、地域の力が必要とされているのか、関係者の声を中心に紹介します。(2～5ページ)



「地域とともにある学校づくり」を目指します



市教育委員会
片倉 敏明 教育長

東日本大震災。子どもたちは、これから始まる長い人生のスタートの時期にあの大震災を経験しました。やがてその子どもたちは、10年、20年、いやそれ以上にかかる復興の最前線に立つことになります。

その子どもたちに、「震災に屈しない生きる力」をしっかり身に付けることは、大人の責任です。学校、地域はその役割を担っています。

「学校・地域教育力向上対策事業」は、地域住民などの参画によって学校の教育活動を支援する事業であり、学校・家庭・地域の協働体制の構築を目指す取り組みです。

■ボランティア登録状況(平成26年2月28日現在)

区分	内容	迫	登米	東和	中田	豊里	米山	石越	南方	津山	個人計	団体
学習支援活動	本の読み聞かせ、書写指導、郷土学習など	2	7	9	25	16	8	9	25	16	117	21
部活動指導・補	卓球、野球、バスケット、バドミントンなど	2	1	16	7	3	1	2	0	2	34	3
登下校安全確保	登下校時の見守り(スクールガード)	3	16	15	11	17	1	7	4	20	94	21
学校行事の協力	不審者対応訓練、持久走大会見守り、中総体救護など	4	0	18	15	10	1	9	9	8	74	12
環境整備・清掃	図書登録・整理・貸出、除草作業、樹木の剪定など	3	1	10	16	2	3	8	4	19	66	5
技術指導など	縄ない、ミシン、竹とんぼ作り、楽器指導など	1	1	7	20	12	3	3	3	11	61	11
その他	よさこい、衣装縫製の指導など	2	1	2	8	4	0	1	0	2	20	4
延べ人数		17	27	77	102	64	17	39	45	78	466	77
実人数		8	24	55	76	53	13	27	29	44	329	58

※ 東和、中田、石越地区は平成23年度スタート、登米、豊里、津山は平成24年度、迫、米山、南方は平成25年度スタート
 ※ 町域の数値は個人登録者数(各区分に重複して登録している人含む)

学校・地域のつながり以前より強く組織的に

核家族化や少子化など社会構造が大きく変化している現在、子どもたちを取り巻く問題や課題が数多くあります。学力や体力の低下、不登校やいじめ、ネット犯罪などです。これらの問題は、子どもだけの問題として片付けることはできません。学校や家庭、地域が連携しなければ解決できない問題です。

そのため、市教育委員会では「学校・地域教育力向上対策事業」として地域との協働教育を推進しています。この事業は、学校と地域をつなぎ、地域の人たちと児童・生徒が、ふれあいながら教育活動を展開していくものです。

これまでの教育活動も、地域の方々の協力を得ながら行われてきました。これに、各町域の教育事務所に配置している地区コーディネーターが



市生涯学習課
及川 浩 社会教育主事

学校と地域をつなぐことで、こうした取り組みをさらに発展させ、より組織的な活動として進めています。

学校と地域の距離縮まる児童生徒の学力向上にも

事業を進める中で、学校と地域の距離感が縮まり、学校に対して地域の人たちの協力が得やすくなりました。また、教員が地域のさまざまな活動に協力する機運も高まり、一部では行動となって表れています。

教育活動では、学習指導の幅も広がり、児童生徒の学力向上にもつながっています。深まりのある体験的な学習が展開できるため、子どもたち

の関心や意欲が高くなり、コミュニケーション能力が培われていると感じています。

事業の推進に当たっては、平成23年度から市内を三つの地区に分け、支援の形態に応じた学校支援ボランティアの登録を順次進めてきました。23年度が東和・中田・石越、24年度が登米・豊里・津山、25年度が迫・米山・南方です。

ボランティア確保と育成学校現場ではまだまだ必要

市教育委員会では、学校支援ボランティアの育成にも力を入れています。本年2月20日には、南方農村環境改善センターを会場に「学校と地域をつなぐボランティア研修会」を開催。学校支援ボランティアやPTA役員、コミュニティ関係者、小・中学校職員など100人を超す人たちに参加いただきました。

学校現場では、まだまだ支援ボランティアの力を必要としています。市教育委員会でも地区コーディネーターを通じて、学校支援ボランティアの確保と育成に力を入れています。これからは、「地域の子ども」を中心に、「地域の子」を育てる活動を進めたいと考えています。

地区コーディネーター 私たちにご相談を

迫

佐藤 美枝
昭和47年生まれ
好きな言葉
「共存共栄」

登米

菅原 有美
昭和49年生まれ
好きな言葉
「思いやり」

東和

石沢 真美
昭和42年生まれ
好きな言葉
「若さ！情熱！正義感！」

中田

粕谷 義昭
昭和26年生まれ
好きな言葉
「無知の知」

豊里

吉田 ちあき
昭和50年生まれ
好きな言葉
「平穩無事」

米山

阿部 久美子
昭和50年生まれ
好きな言葉
「自分にエンジンをかけるのは、自分自身だからね」

石越

阿部 咲子
昭和49年生まれ
好きな言葉
「らしさ」を大切に。「やればできる！」

南方

新田 順子
昭和28年生まれ
好きな言葉
「ありがとう」

津山

西條 紀子
昭和47年生まれ
好きな言葉
「心に太陽を！一人を大切に日々感謝！」

子どもたちの輝く瞳がうれしい 学校とのつながりが、またできた

平成24年9月から錦織小学校で読み聞かせのボランティアをしています。読み聞かせは、低学年の児童を対象に月1回のペースです。

きっかけは、ボランティアの募集案内をたまたま目にしたこと。孫の小学校卒業が近づき、これから地域の学校とのつながりがなくなると、さみしい気持ちでした。

申し込んだ人が他にもたくさんいると思っていました。応募は私一人、と聞いてびっくりしました。始めた頃は子どもたちの反応がとても心配でした。でも、読み終えた後に「次は何を読んでもくれるの」と瞳を輝かせている姿を見たときは、とてもうれしかったです。読み聞かせのボランティアを始めてから、地域の学校とのつながりがまたできました。まだまだ頑張りたいですね。

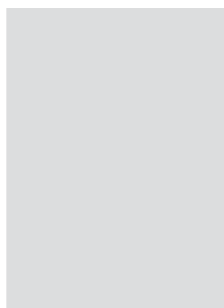
子どもたちが 毎回楽しみに

錦織小
小野寺 純司 教諭

本の読み聞かせは、子どもたちに本の楽しさを知ってもらおうと取り入れています。幸野（徳子）さんは子どもたちに寄り添うように読んでくれます。柔らかい言葉で語るの、子どもたちも本の世界に引き込まれているようです。月1回の読み聞かせの時間を子どもたちは楽しみにしています。「本を好きになった」「いろいろな本を読んでもほしい」という感想も寄せられています。

学校と地域住民のニーズを マッチングする地区コーディネーター

学校とボランティア、ボランティア間の連絡調整を行い、学校と地域をつなぐ役割を果たすのが「地区コーディネーター」です。市教育委員会では、この地区コーディネーターを市内9地区に一人ずつ委嘱し、各地区の教育事務所



市生涯学習課
千葉 加代 社会教育指導員

地区コーディネーターは、「ボランティアの協力が欲しい」という学校の要望と「地域の子どものため、ボランティア活動をしたい」という地域住民の思いを仲介する役割を担います。学校と地域住民、お互いのニーズをマッチングするのが地区コーディネーターです。学校の要望に応じて地域の

地区コーディネーターの役割

学校支援ボランティアの問い合わせは市教育委員会生涯学習課（☎0220-34-2698）か、最寄りの教育事務所まで

子どもたちの登下校を見守るスクールガード

登録ボランティアの思い

「よさこい」を通じ子どもたちの成長する姿を見るのが楽しい

地元のyosakoi（よさこい）ダンスチーム「舞姿道（ぶしどう）みろく」の代表をしています。5年ほど前から、中田中の3年生に「よさこい」を授業の中で教えています。よさこいは夏休み明けの運動会で披露しています。毎年時期が来ると、コーディネーターの方と学校に向いて指導のスケジュールを決めます。練習は6月から夏休み前まで週1、2回のペース。チームのメンバー3人から6人で指導に当たります。最初は、振り付けや声出しを恥ずかしがっていた子どもたちが、練習の回数を重ねるごとに意欲的になってきます。やる気を見せなかった生徒も、怒らず一人一人認めてあげること、だんだんと変わってきます。そんな子どもたちの成長を見るのは、とても楽しくやりのがあります。指導した子どもたちから、卒業後に声を掛けてもらえるのもうれしいですね。

よしゆき
織田 義之さん
(中田町・寺山)

生徒たちを うまく指導

中田中
鈴木 司 教諭

中田中の3年生による「よさこい演舞」は、総合的学習の時間を利用し、織田（義之）さんたちから指導をいただいています。中総体が終わった3年生にとって、運動会で披露する「よさこい」は、みんなで一つのことをやるというモチベーションにもつながっているようです。織田さんは子どもたちの扱いが上手ですね。気持ちを乗せるのがうまく、生徒たちも楽しんで取り組んでいます。